

あ・うん

金剛禪総本山少林寺広報誌

vol.
08

2010
睦月・如月

慶春

新年明けましておめでとうございます。

心は海よりも深く。志は山よりも高く。

2010年、皆で手を取り合って、よい年にしましょう。

金剛禪総本山少林寺代表 浦田武尚

師家・代表対談

楽しい勝負の年

楽しい勝負の年

2010年新春企画。開祖生誕1000年を翌年に控え、今、なぜ宗教なのか、金剛禅の魅力と可能性を師家と代表が語る。本質を見つめ、正しいあり方を問う師家と、志高く、率先垂範で前進する代表。率直に意見を交換し、方針を確かめ合った。

時代の先頭に立つ

代表 21世紀に入って早10年、高度経済成長からバブル崩壊と、混乱、錯乱、狂乱といってもおかしくない時代を経ながら、今まだ社会は変革の渦中にあると感じています。我々の運動も常に、今、何をしなければならぬかを考える必要があります。時代を先取りしていこうと進んできました。現在もその過渡期にあると思っています。ただし、それは社会に迎合するのではなく、金剛禅がやはり世に必要であるという認識を新たに組み込むものだと思います。

師家 金剛禅運動を幸福運動ともいうのは、一般の方にわかりやすく、また私たち自身も実感するためだと思います。代表のおっしゃるように、金剛禅も社会の中で、時代の流れを無視して存在しえませんが、幸福感自体も、60年前、30年前、そして今

と、必ずしも一緒ではありませんし、幸福感に行き着くまでのプロセスも全く違うと思うのです。価値観が多様化した現代、何を信じ、何を指針として生きるかを見つけられない人が増え、さまざまな社会問題が起きていると感じています。だから、今こそ、宗教が必要とされているのです。

寺子屋に代表されるように、昔のお寺は人々が集まり人々をつなぐ場として重要な役割を果たしていました。今また、お寺や教会に人々が集まり、子育てや介護問題を話し合うなど、地域の助け合いの場として見直されていることを記事で読みました。道院はそうした場になれると思うのです。人々の家であり、故郷として、その役割を大切にすることで、より地域の方々に必要とされ、頼られる場になると思います。つまり、道院を活用できる状態をつくっていくことが、社会に役立てる部分ではないでしょうか。

代表 そのとおりだと思います。私も

道院長時代は、そういう道院づくりをしてきたつもりです。何ら制約されることなく、いろんな人が分け隔てなく集まり、協力関係を築く場として活用できる、だから道場を建てました。道院長は職を持ちながら、財産を提供し、道場を建てて、地域社会に根付いた活動をしています。これ誠実であり情熱であり、ほかに何があるかと私は思っています。これこそ、金剛禅教団の誇るべき一番の特徴です。

拳士や希望者は道院を選べるし、逆に道院長も拳士を吟味できる、この道院のスタイルは間違っていないと思っています。私は道院も広域的であるべきだと思って行動してきました。単体の道院では限界があっても、点から線へ、線から面へ広がっていく、布教とはそういう形で広がっていくものです。**師家** みんなが同じでなくいい、それぞれ個性がなくてはいけないと思

います。

今、心の時代といわれて久しいですが、手段を充実させるという意味で、心を補え、養える、そうした空間をいかに持てるかが重要です。少林寺拳法を狭い意味でとらえ、武道的側面でのみ人を集め、教えを説くという考えは、見直さなければならぬと思っています。手段は進化していかないと。今年は、それをきちんと世に示したいと考えています。

また、そのためには指導者自身、心豊かで、人を引き付けるものがなければ布教活動はできないと思います。今の社会は、いい意味でも悪い意味でも、すぐに結果が出ます。だから、今、増えなかったら本物ではない。

無限の可能性

代表 私は若いころ、技術だけで高みに登れると思っていました。ところが、それでは限界があるのです(笑)。



金剛禅総本山少林寺
代表 浦田 武尚



少林寺拳法師家
二世 宗 道臣



師家を支え、以心伝心、 金剛禪を清新していく

——代表

精神的な裏付け、特に金剛禪運動の原点なくして本質をつかめないと気がついたのは、道院長になって10年ほどたったときでしょうか。それから道院運営にも一層力が入ったように思います。やはり最初から100パーセントできるわけがありません。私は開祖に「人づくりの道を一緒に手伝うのはいやか」と言われ、22歳のとき、道院長になりました。片手に墨染の衣、もう一方の手に教典を持たされ、ぼんと背中を押し出されたと思っています。

師家 私22歳で師家に就任しましたが、押されたというより背中を突き飛ばされた感じです(笑)。でも、そういう場面は必要だと思います。

組織運営をどうするか、夢中で考え行動していたあるところから、言葉にはならないけれど、これがダーマ信仰なのかとわかりました。開祖が言葉だけでなく、背中で教えてくれたものは何か。それは、自分の感性を信じることではないかと思っています。自分の感性を信じるということは、自分の可能性を信じることであり、要するにダーマそのものなのです。人はそうした徳性を持って生まれてきたのですが、それは放っておいては曇ります

し、なくなってしまう。自分の感性を信じるためには、感性を磨いていかなくはいけません。心を育てるための場として少林寺拳法があり、道院があるわけです。

ところが、実際に少林寺拳法を修行している人が、できない理由ばかり考へ何も行動しないですとしたり、すでに入り口で違っていますよね。本当にダーマ信仰をしているのですかと聞きたい。私は、組織の中で楽しく問答を繰り返していくことは、とても魅力的なことだと思うのです。

代表 私もそうあるべきだと思います。だから道院長はこれからも自信を持って人づくりの道を歩んでほしい。

師家 そうですね。私は改革に取り組んでいます。壊したいのではなくて、もっと大事にしたいと思っています。技術にしても、鎮魂行にしても、形骸化^{けいがい}しては、そのものを粗末にしていると思うのです。教団も事業仕分けをしませんか。とにかく今ある行

事を全部見直してはどうでしょうか。何のためにしているのかわからず、形骸化していることがたくさんあるように思います。道院長が勉強する時間を取れて、より拳士一人ひとりと向き合う時間をつくれるように、事務手続きも整理してスリム化しましょう。おかしいと思ったら変えていかなくはいけません。そしてできる方法を見つけていくのが金剛禪なのです。

代表 金剛禪の本質をとらえているのか、私たち自身が問われているのだと思います。やはり、師家の言葉を表面だけとらえて解釈してはいけませんね。師家の思いを正しく広報していく使命も感じています。少林寺拳法も、開祖に代わって、私たちが、その魅力を周りの人に話したことで流行しました。師家だけでなくほかの人が言っているのが広がっているのだと思います。そして、そのために以心伝心、金剛禪の本質を体得して実現してくれる、リーダーがいらないといけません。その意味でも、今年の方針に、後継道院長、若手指導者育成も掲げています。金剛禪を清く新しくしていく。力の限り取り組んでいくつもりです。

師家 今年は楽しい勝負の年です。

人々が集い、心が満たされる場 道院活動のより一層の充実を

——師家

担当／山下真由美

宮城県教区

「調和力」をテーマに
清々しい汗を流す

9月19～20日の2日間、宮城^{しおがま}塩竈道院にて、宮城県教区の「技術研修会」ならびに「達磨祭」が開催されました。

今回は、専門学校禅林学園から山崎博通校長をお招きして、教区内から18道院54人が集まりました。山崎校長の直接指導では、みな、清々しい汗と、笑顔にあふれたときを過ごしました。「調和力」をテーマに指導を受けましたが、2日間だけの短い研修ではまだまだ理解に至らず、今後の課題となりました。終始和やかな雰囲気で行われ、「来年も山崎先生の指導を受けたい」と参加者全員が一緒に話しており、ぜひ来年も企画をしていきたいと考えています。

京都府教区

法輪寺で初の達磨祭

10月18日、京都府教区として初めての達磨祭が京都市内の臨濟宗法輪寺で行われました。

この法輪寺は通称達磨寺とよばれ境内には八千体余りの達磨像が安置されている禅寺で



す。今からおよそ半世紀前、少林寺拳法の思想や修行のあり方に深く感銘を受けた後藤伊山老師と、金剛禅の布教と発展に奔走する開祖との出会いによって京の地に「京都別院」として少林寺拳法が根を下ろした場所でもあります。

当日は高野昭京都府少林寺拳法連盟会長、小野俊一京都府少林寺拳法振興会会長をご来賓に迎え、数多くの道院長や幹部拳士の参列の下永田教区長による献香、祭詞奉読、門信徒献香と厳かに祭事が執り行われ、その後、会場を十牛の庭を望む本堂に移し峠徹京都京極道院長による達磨についての法話が行われました。

他宗派の境内で金剛禅の祭事が行われていることにいささか

の驚きを感じながらも、それ故に開祖の偉大さと時を越えこのよき関係を守り続けてこられた先人の努力に敬意を表しながら、金剛禅の更なる発展と充実のために新たな決意と覚悟を参列者全員の胸に深く刻んだ一日となりました。（富澤伸二）

沖縄県教区

初めての教区研修会

10月16～18日の3日間、浦田武尚代表と長田正紀責任役員による沖縄県の道院視察と初めての教区研修会が行われました。これは、空手発祥の地であり、少林寺拳法がまだよく知られていない沖縄県で、少林寺拳法をどう広めていったらよいのかを探っている中で、宗門の行としての少林寺拳法をよく知りたいという私たちの要望を受けていただいて実現したものです。

17日には、沖縄本島北から南までの全3道院を訪問、法話や技のご指導をいただき、一般、少年部拳士が浦田代表、長田責任役員との触れ合いの場を持つことができました。

18日の研修会には、全3道院2支部の道院長、支部長と幹部拳士13人が参加し、浦田代表からは正しい釈尊の教えを受け継

いだ金剛禅の歴史、金剛禅の普及のために代表がなされたさまざまなご努力と金剛禅の今後のあり方についてのわかりやすいお話をいただき、長田責任役員からは繊細でありながら豪快な技とそのコツを丁寧にご指導いただき大変感銘を受けました。

今回のご訪問により、沖縄県教区がこれから金剛禅の布教活動を進めていくうえでの指針をいただけましたが、何より浦田代表と長田責任役員の金剛禅の布教への熱意と拳士への温かさに触れ、こうした先生方のご厚

宝来拳士の行動に
誇りと勇気を！

岡山東道院の宝来隆太郎さん（岡山・関西高校1年、写真右）が、窃盗犯を捕らえるという、



意に応えるべく、私たちは志を新たに、全員で協力して布教に取り組んでいきたいという思いを強くしました。（鳥袋容子）



勇気ある行動を起こしました。事件は、6月4日午後7時50分ごろに発生。岡山市内で、女性の財布をひったくった男性を、自転車を通りがかった宝来さんと、もう一人の男子生徒が取り押さえ、警察官へ引き渡しました。写真は、6月10日、岡山市役所にて市長から感謝状を贈られたときのものです。

宝来さんも、もう一人の男子生徒も、恐らく考えたり、相談したりする暇などなく、とっさに体が反応したことと思います。私たちに誇りと勇気を与えてくれたお二人の行動を、ここに報告いたします。（飯野貴嗣）



脚下照顧

「脚下照顧」——少林寺拳法入門時に道院長や先輩からその言葉の意味について、またその実践指導を受けます。

最初は単に履物を揃えること
（そろ）
と思い、日々修練のたびに揃えるのですが、そのうち自分の足元を見ることに気づき、更には自分自身を見つめ直すことに気づいていきます。

「脚下照顧」は周知のとおり、金剛禪独自の言葉ではなく、言わずと知れた禪家の言葉であり「照顧脚下」「看脚下」ともいわれ、禪寺に行くとき入り口にこの文字を見かけることがあります。

我々は、日々の修練において鎮魂行をするわけですが、これは精神を整え、心を落ち着かせ、正に自己を見つめ直すことにはかならないのです。

自分自身を見つめ直すことにより、結果的には知って・気づいて・改めることを学び、これが自己を改造（確立）することにつながっていくのです。

金剛禪の修行者が特に気をつけなければならないことは、「拳に走る者は拳に溺れ、拳に潰され、また、拳を避ける者は口実に走り、我を失う」ことを

知らなければなりません。

故に我々金剛禪の修行者は宗門の行たる少林寺拳法を修行（主行）し、宗門である金剛禪の教えを修学しなければならぬのです。拳禪一如の修行法といわれるゆえんがここにありま

す。その第一歩として自分自身を見つめ直すことが必要となってくるのです。

当然至極ですが、漸々修学たる我が金剛禪は一步一步自身身の足で、その足元を己自身が確かめ着実に進歩する道を歩むことにかならないのです。

ともすれば情報化社会の洪水に流され、飲み込まれそうな毎日ですが、日々の鎮魂行により一日を見直し、反省する「行」の大切さが身に染みる今日このごろです。

「脚下照顧」は簡単なようで、その実大変奥深く難しいものなのです。

生きている今を大切にし、一生をかけて修行する金剛禪であるからこそ、「脚下照顧」の言葉が生きてくるのです。

開祖語録 ダイジェスト

1979年12月15日
緊急道院長会議・
道院長講習会

少林寺拳法は最初から、宗教活動をやるうという事で始めたわけである。ところが最初のころはたいいてい、「おい、中国の拳法とかいうの習いに行こうか。あれ、けんかに役立つぞ」くらいのことで入門してきたね。

でも来てみると、お説教を聞かされる。お説教を聞かなかつたら技を教えてくださいわい。

しかもだ、古い連中はみんな覚えてるよな、私は人を集めるビラ1枚貼ったことがあるか。一ぺんもありませんぞ。縁ができた人が、「僕の友達でこういうのがおるんじゃが、入門させてもらえませんか」と友達を連れてくる。だから紹介者のない

やつは入門させなかった。

私は自分の力で建てた12坪半の家の、その中の6畳間を道場として板の間にしてあった。その一隅に3尺の小さな祭壇を作って、ダルマさんをご本尊にしてあった。その前に5人でも10人でも座って、鎮魂行ができたり、教典を読む。そういう場を最初から常設してあった。

これが道院のいわば原型だ。祭壇の大小はどうでもよい。要するに精神的な要素・思想が中心にあって、その裏付けとしての技術があり、そして人間関係を重視している。だから少林寺拳法は単なる武道やスポーツではないのです。



道院は地方における金剛禪の 布教活動の拠点・前線部隊だ

2009年10月度 認証

●新設

札幌豊平道院	上代 裕幸	多治見青龍道院	永田 博美	東大阪東道院	向井 隆輝	南予伊方道院	神野 敏
東京大塚道院	秋吉 好美	清須西道院	木村 邦彦	加古川米田道院	村田 素彦	愛媛しまなみ道院	川畑 隆昭
座間道院	設楽 英樹	東海加木屋道院	秋葉 みどり	鳥取浜坂道院	森田 典秀	福岡嘉麻道院	竹田 英一
		滋賀山東道院	白井 章義	尾道道院	榊田 光男	宮崎日南道院	良本 昭雄

僧階昇任者

大導師

■2009年11月1日付

斉藤 政実(伊豆長岡道院)

中導師

■2009年10月1日付

根谷 憲皇(埼玉北浦和道院)

堀江 誠(武蔵浦和道院)

國吉 衛(流山道院)

磯貝 利夫(野田中里道院)

鈴木 和夫(遠州竜洋道院)

平田 武雄(半田東道院)

中島 章詞(大阪新淀川道院)

庄坪 俊明(兵庫県市川道院)

栢森 秀明(六甲アイランド道院)

上浦 敏史(三田南道院)

栗栖 誠(和歌山吉備道院)

春口 敬介(熊本銀杏道院)

村松 輝久(鹿児島南道院)

■2009年11月1日付

石渡 昇(横須賀武山道院)

中村 隆之(三重桑名道院)

林 比登志(三重桑名道院)

市来 聖史(京都北野道院)

祖田 正美(米子後藤ヶ丘道院)

中川 純(専門学校禅林学園)

お布施

▷倉敷東道院 林 節男	100,000円
▷愛知幸田道院 吉岡 修	10,000円

1月の本山行事

10日(日) 鏡開き・新春法会
24日(日) 定例昇格考試

2月の本山行事

21日(日) 定例昇格考試・帰山・認証式

本山では、少林寺拳法の理念の下、受講生の日々の修練や社会生活全般に役立つ有意義な講習を企画していきます。

2010年度もたくさんの拳士の受講をお待ちしています。



2009年度本山講習会報告

テーマを、「少林寺拳法を学ぶことは人としての生き方を学ぶこと」とし、少林寺拳法の修練を日常生活に生かすべく、技術と講義が密接に関連し合い、すべてのプログラムがテーマに沿った形で進められた。相對演練による修練を通じて、自分も他人も生き生きと向上を楽しむことはもちろんだが、少林寺拳法を学ぶことで、人としての生き方を学び、更に教を日常生活において実践し、他人や職場、地域社会へ貢献することに私たちの修行の真の目的がある。そんな願いが込められて設定されたテーマであった。

9月13日から15日には、四段以上を対象として講習会1次が行われた。より専門的な技術が修得できるよう、圧法・締法・整法の時間も多く取り入れられた。受講生は皆精力的に修練に励み、グループごとの討議においても、後輩拳士の育成や、修練で学んだことをどのように日常生活で生かしていくかについて積極的に意

見が交わされた。

続く10月3、4日の特別講習会では、開祖に直接手ほどきを受けた田原正晴本山委員(岡山光南道院長)を講師に迎えて行われた。受講生たちは田原講師が修得した精妙な技のコツや身体の使い方を学ぶとともに、「時は今」を胸に刻み、常に積極的に行動しようという田原講師の価値観に感銘を受けていた。

今年度最後となった10月31日から11月1日に行われた講習会2次では、初段から三段までの各道院の若手拳士が数多く集まった。受講生の中には初めて帰山する者も多く、本山の荘厳な雰囲気の中、全国の同志と修練を行い、少林寺拳法の楽しさや奥深さを再発見するとともに、今後の修練の励みとなったようである。

なお、今年度の講習会では、『僧階教本』に沿ったテーマ別講義も行われ、より広く専門的な金剛禅の知識を深めるとともに、道院や日常生活で実践する活力を得るきっかけとしていただいた。

随時受付

広報誌『あ・うん』追加発送について

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(※1部につき50円を口座引き落とし・送料別途)

TEL.0877-33-1010 mail:fukyoka@shorinjikempo.or.jp

掲載中

オフィシャルウェブサイト

〈代表メッセージ〉

すでに30号を超え、現在も2週ごとに更新されています。

〈広報誌『あ・うん』コーナー〉

紙面では掲載していない、投稿記事や「編集部こぼれ話」、「技術の動画」も閲覧することができます。ぜひご覧ください。



宗務局長 田村 明

vol.8 坐禪

清風

對本宗訓の『坐禪』という本を読んだ。禪とは「心を落ち着ける」「心を調える」という意味で、坐禪とは行住坐臥のうちで坐って心を落ち着ける、坐って心を調えることだとし、立って心を落ち着かせるのは「立禪」、横になつては「臥禪」、歩いていけば「歩行禪」とあった。

行住坐臥とは四威儀といつて、日常生活のすべてをこの四つの状態にとらえる。すなわち日常生活すべてのことをいう。要するに、日常いつでもどのような状態でも、禪の状態を生かすことができるというわけである。とはいふものの、呼吸や静かなることを満たすのは坐ること、すなわち「坐禪」が心を落ち着かせるにはいちばんよいのだろう。そのために金剛禪における鎮魂行では、息を整え身心を同時に鍛錬するため、意識的に調息法を用いているのである。

金剛禪では、一日中が内修・外修の修行であることは「金剛禪門信徒の修行法」を見れば理解できよう。しかし、易筋行のみが修行ではないということは理解できても、この「金剛禪門信徒の修行法」に沿って生活しているのかは、絶えず自問自答することが必要だろう。(続く)

一期一笑



イラスト/大原由帆子

出店が結ぶ人の縁

本山達磨祭に兵庫県教区として初めて参加しました。父が兵庫県教区役員をしていることから、地元の「姫路おでん」を作りました。

前日から、姫路近隣の道場の保護者と一緒に大根や卵の殻をむき準備しました。ふだん、地元「開祖デー」の出し物として取り組んでいるので経験はあったものの、5品で500人分のおでんは半端ではありません。しかも達磨祭当日は、かんかん照りのよい天気恵まれたこともあり、おでんの売れ行きが悪く、開始から30分たつても3個しか売れなかったときは心配しました。

しかし、その後は順調に売れ出し、買ってくださいと皆さんに「おいしい」と言ってもらえて、嬉しかったです。今回、貴重な体験ができたことと、他の県の方々に親切にしてください。

英賀保道院・18・的場史憲) 姫路おでん...しょうが醤油で食べる姫路流のおでん。さっぱりとした味わいが特徴です。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。
なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

File.8 総務部総務課 (2009.11月現在)



保長 三谷多恵子、副保長 横関智也、書記 橋本久美子、事務 橋本久美子、事務 橋本久美子

本山見える課

事務局紹介のコーナー

総務課には総務係と管財係があります。

総務係はおもに本山委員の先生方に委員会の開催案内や道院の慶弔関係、内局においては職員の労務・福利厚生に関する業務を行い、管財係は土地、建物、車両、樹木、設備、備品などの管理を行っています。

本山を訪れるお客様をはじめ、道院長・拳士が帰山されたときに安らげる場所としてあり続けるために館内建物の修繕、美化(作務)に努めています。

課内ではコミュニケーションを図りチームワークのよい部署を目指しています。

上受投



Goka Ken, Uwa uke nage

ご かけん うわうけなげ
五花拳 上受投

宗門の行としての少林寺拳法

上受投の要点は、上受からの掛手と基準線のつくりである。上受をした手は、攻者の手甲にあてがい、掛手の形をつくり、肘から引くように崩しの体勢に導く。同時に当身をした手は、攻者の上腕部を肩から肘に向かって擦るようにして肘に引っ掛け、逆の基準線をつくる。これで攻者は完全に順逆のつくりが極まった体勢となる。後は体を半転身して投げる。

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 大拳士六段

表紙 かねもとよしとし **金本孔俊**／極寒の地に昇る太陽。アラスカ州北極圏パローにて。【プロフィール】1954(昭和29)年、兵庫県生まれ。88年、フォトスタジオ「ゴールド」設立。94(平成6)年からアラスカでオーロラを撮影し、ライフワークとして情熱を注ぐ。写真集に『神秘アラスカ』(京都書院)『ALASKA』(青幻舎)、『聖夜 ALASKA-Holy,Night』(青幻舎)がある。神戸六甲道院、正拳士四段。http://www.studio-gold.com

● **編集後記**▶新年を迎えおめでとうございます。門信徒、拳士の皆様には、心新たなる新鮮な気持ちで「一年の計は元旦にあり」と、夢や希望を持たれたことと思います。▶我々門信徒として、常に「上求菩提・下化衆生」を日々の生活に生かし、布教に専念し仲間を増やす幸福運動の実践に邁進したいものです。▶道場で修練・学習したことを、日常生活で運用、応用できて初めて価値が出る。「行住坐臥」の精神で更なる「自己確立」を図りましょう。(あ)

発行人：浦田武尚 発行所：金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 <http://www.shorinjikempo.or.jp>
編集人：秋吉好美 企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp
金剛禅総本山少林寺広報誌「あ・うん」 2010年1月1日発行(奇数月1日発行)通巻第8号 印刷・製本：(株)ブル・ドック
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITYによるライセンス事業の収益金が活用されています。

<http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html>では、誌面に掲載仕切れなかった記事、写真のほか、動画などもご覧いただけます。



SHORINJIKEMPO